

体系的なリフレクションの実践 ～ICUサービス・ラーニングの事例より～

ICUサービス・ラーニング・センター

本郷 好和

黒沼 敦子

村木 沙耶

2009.12.11
海外体験学習研究会 @東洋大学

発表の流れ

- ICUサービス・ラーニングと体系的リフレクション
- リフレクション活動の実際例
- 学生の視点から
- ふりかえりプロセスのポイント
- まとめ

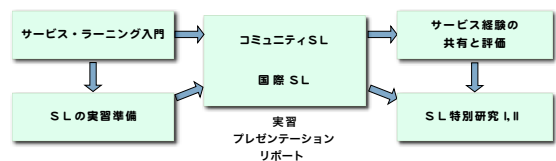
2

ICUサービス・ラーニングの 特徴

- 「サービス」と「学び」を重視
- 個々の学生がサービス活動機関を選び、参加
 - ▶ 30日相当の奉仕活動
- サービス活動終了後に履修登録して単位取得
 - ▶ 準備コースや事後のふりかえりのコースもある
- 学生が自分のSLアドバイザーを見つける

3

コースとその流れ



コース Courses			
サービス・ラーニング入門	Spring	(2)	GES045 Introduction to Service-Learning
サービス・ラーニングの実習準備	Spring	(1)	SLR201 Preparation for Service Learning Field Study
コミュニティ・サービス・ラーニング	Spr/Aut/Win	(3)	SLR301 Community Service-Learning
国際サービス・ラーニング	Spr/Aut/Win	(3)	SLR302 International Service-Learning
サービス経験の共有と評価	Autumn	(1)	SLR202 Reflection on Service-Experiences
サービス・ラーニング特別研究 I, II	Winter (alt.)	(2)	SLR381/2 Special Studies in Service Learning I, II

カッコ内の数字は単位数。(alt.)は隔年開講を表す。 The numbers in parentheses are credit units. SLR381/2 are offered alternately.

リフレクション (Reflection)

- サービスを学びにつなげる重要なしくみ
 - ▶ 何をしたかではなく、何をどれだけ学んだか
 - ▶ 意図的学習者 (Intentional learner)を養成
- 「ふりかえり」「内省」などとも言われる
- 多様なリフレクション活動を用意

5

学びへの寄与

- 学びの充実
 - ▶ 深化 (deepening)
 - ▶ 連鎖 (expansion) - 個人内, グループ間, トピック間
- 学びの体系化/位置づけ
 - ▶ 学びの整理, 相対化
- 学びの定着
 - ▶ 内在化, 習慣化

6

リフレクションの3ベクトル

- 領域
- 段階 (タイミング)
- モード

7

Reflection 領域

- リフレクションする対象の種類
 - ▶ 具体的サービス体験に基づき互いに関係し合う
- 1) サービス実施/プロジェクト実現
 - ▶ コミュニケーション, 人間関係, 組織, 役割, 貢献etc.
- 2) テーマ/トピック理解
 - ▶ 貧困, 人権, 環境, 開発, ESL, 介護, etc.
- 3) 自己成長
 - ▶ 感情, 変化, 態度, 行動, etc.

8

Reflection 段階

- 流れ
 - ▶ 事前 → サービス活動中 → 事後
- 1) 事前
 - ▶ SLアドバイザーとの面談, エッセイ, 勉強会
- 2) サービス活動中
 - ▶ ジャーナル, スーパーバイザー指導, e-mail指導, 反省会/ディスカッション, ML
- 3) 事後
 - ▶ 面談, ディスカッション, プレゼン, ペーパー

Reflection モード

- モード: 個人, 1対1, グループ
 - ▶ リフレクション活動を誰と行うか
 - ▶ モードを混在させる事で学びに相乗効果
- 1) 個人
 - ▶ 個々の学習者が行う
- 2) 1対1
 - ▶ 主にSLアドバイザーやスーパーバイザーが学習者を指導
- 3) グループ
 - ▶ 複数の学習者やグループでの活動

10

Reflection マトリックス

- リフレクション活動を段階とモードのマトリックスで位置づけ
- 活動毎に, 重要になる領域が変化
- 体系的リフレクションによる学びの実現

11

Reflection マトリックス

	個人	1対1	グループ
事前	エッセイ	SLアドバイザー面接	勉強会
サービス中	ジャーナル	スーパーバイザー指導 Eメール指導	反省会 ML
事後	プレゼン準備 ペーパー	面接	プレゼンテーション ディスカッション

リフレクション領域

サービス/プロジェクト実現	(人間関係, ロジスティックス, etc.)
テーマ/トピック理解	(開発, 貧困, 老人問題, etc.)
個人の内面・成長	(自己の感情, 変化etc.)

Reflectionマトリックス

		モード			
		個人	1対1	グループ	コース
段階 ↓	事前	エッセイ	SLアドバイザー面接	勉強会	『S-L入門』 『S-Lの実習準備』
	サービス中	ジャーナル	スーパーバイザ指導 Eメール指導	反省会 ML	
	事後	プレゼン準備 ペーパー	面接	プレゼンテーション ディスカッション	『サービス経験の 共有と評価』

リフレクション領域

- サービス/プロジェクト実現 (人間関係、ロジスティックス、etc.)
- テーマ/トピック理解 (開発、貧困、老人問題、etc.)
- 個人の内面・成長 (自己の感情、変化etc.)

リフレクション活動の 実際例

実際例

- 科目を通して
- 各段階・モードで
- その他

15

Reflection ポイント

		個人	1対1	グループ	コース
段階 ↓	事前	エッセイ	SLアドバイザー面接	勉強会	『S-L入門』 『S-Lの実習準備』
	サービス中	ジャーナル	スーパーバイザ指導 Eメール指導	反省会 ML	--
	事後	プレゼン準備 ペーパー	面接	プレゼン ディスカッション	『サービス経験の 共有と評価』

Reflection ポイント

		個人	1対1	グループ	コース
段階 ↓	事前	エッセイ	SLアドバイザー面接	勉強会	『S-L入門』 『S-Lの実習準備』
	サービス中	ジャーナル	スーパーバイザ指導 Eメール指導	反省会 ML	--
	事後	プレゼン準備 ペーパー	面接	プレゼン ディスカッション	『サービス経験の 共有と評価』

事前 x 個人

- エッセイ (選考プログラム応募者)
 - ▶ A4 1~2ページ (英文)
 - ▶ 応募動機を含む自己紹介文
- Pre-departure Survey (全員)
 - ▶ サービス活動に対する期待
 - 経験に対して、新しく出会う人に対してなど
 - ▶ サービス活動を通して達成したいこと
 - ▶ どのような貢献ができると思うか
 - ▶ どのような準備をしているか

18

Reflection ポイント

	個人	1対1	グループ	コース
事前	エッセイ	SLアドバイス 面接	勉強会	『S-L入門』 『S-Lの実習準備』
サービス中	ジャーナル	スーパーバイザ指導 Eメール指導	反省会 ML	--
事後	プレゼン準備 ペーパー	面接	プレゼン ディスカッション	『サービス経験の 共有と評価』

Reflection ポイント

	個人	1対1	グループ	コース
事前	エッセイ	SLアドバイス 面接	勉強会	『S-L入門』 『S-Lの実習準備』
サービス中	ジャーナル	スーパーバイザ指導 Eメール指導	反省会 ML	--
事後	プレゼン準備 ペーパー	面接	プレゼン ディスカッション	『サービス経験の 共有と評価』

事前 × グループ

- 勉強会
 - ▶ SLANプログラム必須、その他は任意
 - ▶ 週1回以上（全6回程度）
 - ▶ 活動計画書を提出する
 - ▶ 学生同士で行う ※南京プログラムは教員主催
- 講演会
 - ▶ 主にSLC主催



事前 × グループ

- 映画上映会（主にSLC主催）
 - ▶ 闇の子供たち（タイ）
 - ▶ Iris Chang、靖国（中国）
 - ▶ ナナムの家（韓国）
 - ▶ etc.

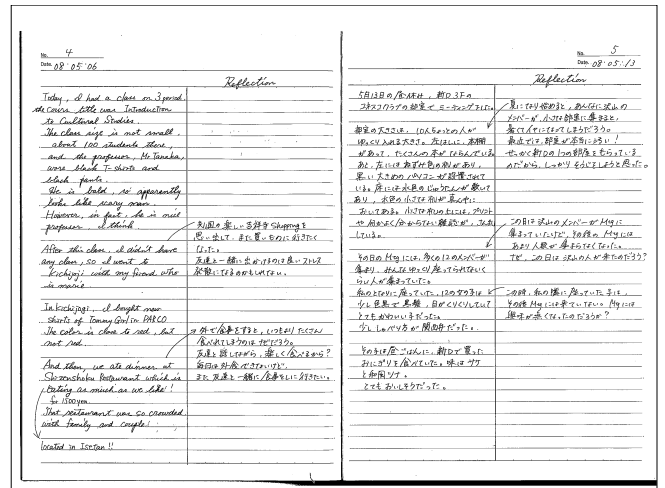


Reflection ポイント

	個人	1対1	グループ	コース
事前	エッセイ	SLアドバイス 面接	勉強会	『S-L入門』 『S-Lの実習準備』
サービス中	ジャーナル	スーパーバイザ指導 Eメール指導	反省会 ML	--
事後	プレゼン準備 ペーパー	面接	プレゼン ディスカッション	『サービス経験の 共有と評価』

サービス中 × 個人

- ジャーナル
 - ▶ 日記ではなく、「日誌」をつける
 - ▶ 言語化 ⇒ 記録 ⇒ 解釈 ⇒ 吸収
 - ▶ 後に、振り返りの記録を加える



Reflection ポイント

	個人	1対1	グループ	コース
事前	エッセイ	SLアドバイザー 面接	勉強会	『S-L入門』 『S-Lの実習準備』
サービス中	ジャーナル	スーパーバイザ指導 Eメール指導	反省会 ML	--
事後	プレゼン準備 ペーパー	面接	プレゼン ディスカッション	『サービス経験の 共有と評価』

Reflection ポイント

	個人	1対1	グループ	コース
事前	エッセイ	SLアドバイザー 面接	勉強会	『S-L入門』 『S-Lの実習準備』
サービス中	ジャーナル	スーパーバイザ指導 Eメール指導	反省会 ML	--
事後	プレゼン準備 ペーパー	面接	プレゼン ディスカッション	『サービス経験の 共有と評価』

サービス中 X グループ

- ML (メーリングリスト, 夏のみ)
 - ▶ 学生とSLCスタッフ, 希望するSLアドバイザー

29

Reflection ポイント

	個人	1対1	グループ	コース
事前	エッセイ	SLアドバイザー 面接	勉強会	『S-L入門』 『S-Lの実習準備』
サービス中	ジャーナル	スーパーバイザ指導 Eメール指導	反省会 ML	--
事後	プレゼン準備 ペーパー	面接	プレゼン ディスカッション	『サービス経験の 共有と評価』

事後 X 個人

- プレゼン準備
- ペーパー
 - ▶ A4で10枚程度
 - 日本語10,000字, 英語2,500~3,000 words 目安
 - ▶ 執筆言語は原則活動時の言語
 - ▶ 3部作成 (SLC保管, SLアドバイザー評価, 受入先)

31

Reflection ポイント

	個人	1対1	グループ	コース
事前	エッセイ	SLアドバイザー 面接	勉強会	『S-L入門』 『S-Lの実習準備』
サービス中	ジャーナル	スーパーバイザー指導 Eメール指導	反省会 ML	--
事後	プレゼン準備 ペーパー	面接	プレゼン ディスカッション	『サービス経験の 共有と評価』

Reflection ポイント

	個人	1対1	グループ	コース
事前	エッセイ	SLアドバイザー 面接	勉強会	『S-L入門』 『S-Lの実習準備』
サービス中	ジャーナル	スーパーバイザー指導 Eメール指導	反省会 ML	--
事後	プレゼン準備 ペーパー	面接	プレゼン ディスカッション	『サービス経験の 共有と評価』

事後 X グループ

- プレゼン
 - ▶ 発表時間は1人20分程度。質疑応答10分程度。
 - ▶ 発表言語は原則活動時の言語。
 - ▶ SLアドバイザー出席。
 - その他学生・教員の参加自由。
 - ▶ SLANプログラム参加者は原則グループ毎に
- ディスカッション
 - ▶ 『サービス経験の共有と評価』授業
 - リフレクション・ワークショップ

34

Reflection ポイント

	個人	1対1	グループ	コース
事前	エッセイ	SLアドバイザー 面接	勉強会	『S-L入門』 『S-Lの実習準備』
サービス中	ジャーナル	スーパーバイザー指導 Eメール指導	反省会 ML	--
事後	プレゼン準備 ペーパー	面接	プレゼン ディスカッション	『サービス経験の 共有と評価』

体験の共有

- 体験や解釈を分かち合う
- 「サービス経験の共有と評価」コース
 - ▶ リフレクション・ワークショップの形式
 - ▶ 小グループの話し合い
 - ▶ プレゼンテーション
- リフレクションの次の段階にすすむ

36

学生からの視点

- 村木 沙耶さん
 - ▶ 教養学部2年生
 - ▶ 2009年夏、国際サービスラーニングに参加
 - ▶ 南京大学 および 愛徳基金会 (Amity Foundation)
 - ▶ 3名で活動
 - 翻訳 (John Rabe Memorialにて)
 - 知的障害者の支援 (Home of Blessings)

37

ふりかえりプロセスのポイント

- ふりかえり段階 (タイミング)
- プログラム全体

38

ふりかえり段階について

- 事前 - テーマを持つ
- 活動中 - 壁を乗り越える
- 事後 - 時間をおく

39

事前 - テーマを持つ

- 「体験によって、ある種のステレオタイプがより強くする込まれてしまうこと…現場体験で見たものがむしろ現実なのだと思います。危険性は、実はとても強いものがあると思っています。(中略)体験学習に意味があるとすれば、**学習目標**というものを、**組織する側がきちんと意識して教育的な配慮をしていかなければならないのだ**と思う」(上村先生講演より, 2009)
- 「**自分なりのテーマと目標**をもって、いろいろな人と接し、学ぶことをお奨めします。」
- (山本SLC顧問MLへのコメントより, 2009)

「今までの自分をリフレクションする」

活動中 - 壁を乗り越える

- 常に通訳を介さないと言葉が通じないもどかしさ
- サービス先のニーズと自分たちのサービスが一致せず、途方に暮れる
- 私たちは何のためにインドへ来たか
- 翻訳の仕方によって自分の政治的な立場が露になる
- 何も仕事をやらせてもらえない
- 自分が役に立っていないというジレンマ
- 被爆話を聞いている最中に、自分の目の前でその方が息を引きとった

「問題・困難が起こったときの対応」

事後 - 時間をおく

- 「『自分』って何だろう?『自分』はこの世界でどんな存在なのだろう?何ができるのだろう?…(中略)。このような**答えの出ない問い**に国際インターンシッププログラムを通じてやっととり着くことができた。このプログラムの『学び』によって、私は自分の全てをぶつけて答えをさがし、さまよい、自分の周りの社会、ひいては世界に目を無か、自分には何ができるのかを真剣に考え、向き合うことが大事なのかがわかった。それはつまり『**自分を意味づける**』(contextualize myself)ことの体験だった」(和栗, 2005)

「俯瞰的視点で、思考から表現へ」

プログラム全体について

- 対話・シェアリング
- SLアドバイザー

43

対話・シェアリング

- 5W+1Hが基本
 - ▶ Who:
 - 教員→学生, 職員→学生, 受入担当者→学生
 - ICU学生⇔ICU学生, ICU学生⇔現地, 他国学生
 - 自分自身
 - ▶ When:
 - 事前
 - 活動中
 - 事後

44

SLアドバイザー

- 運営側が期待する役割
 - ▶ サービス活動とアカデミック・ラーニングとのつながり (リンク)
 - ▶ 「それぞれの専門に詳しい教員からのサービス活動に対するガイダンスを期待してのこと」 (佐藤2007)
- インセンティブ (?)
 - ▶ 学生：選べること = 教員：選ばれること
- 課題
 - ▶ 評価の基準

45

まとめ

- 課題
 - ▶ リフレクション
 - ▶ プログラム
- 今後に向けて

46

リフレクション課題

- メーリングリスト
- SLアドバイザーの指導
 - ▶ 面接 (事前, 事後)
- プレゼンテーション
- リフレクション・ワークショップ
 - ▶ 『サービス経験の共有と評価』

47

プログラム課題

- 理解の均一化
 - ▶ 教員間
- ツールの充実
 - ▶ アドバイザーハンドブック
 - ▶ インタビュー(面接)質問ガイドライン
 - ▶ 評価の基準設定
- サポートの効率化

48

まとめ

- サービス体験を「学び」につなげるのがリフレクション
- 多様なリフレクション活動を体系的に行う事で、効果的な学びをめざす
- プロセス知の形成へ

49

今後に向けて

- 個々のリフレクション活動の工夫
- 事後リフレクションの多様な機会の提供
- **SLプログラム全体の改善**
 - ▶ リフレクションを通じた効果的な学びを支える基盤強化

50

References

- Eyler, Janet, "Creating Your Reflection Map" New Directions for Higher Education, no. 114, Summer 2001
- Eyler, Janet and Giles, Ewight, Where's the Learning in Service-Learning?, Jossey-Bass 1999
- Rogers, Carl, On Becoming a Person: a Therapist's View of Psychotherapy, Houghton Mifflin 1961
- 佐藤豊 (2008) 「特集 大学教育における体験型学習の意義 『サービス・ラーニング』の展開」 『大学時報』 No.318
- Schon, Donald A., The Reflective Practitioner: How Professional Think in Action, Ashgate 1995
- 上村英明 (2009) 「体験学習に優位性はあるのか～まとめに変えて」 『文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）- 専門性をもった教養教育としての体験学習（2006～2008年度）社会的公正をグローバルを目指す市民の育成」特色GPの活動3年間をふりかえって 活動最終報告会報告書 2008年度外部評価報告書』 恵泉女学園大学
- 和栗百恵 (2005) 「『大学』教育として取り組むべき課題—大学が取り組む意義、日本の大学教育の現状に照らして—」 『大学教育における海外体験学習研究会 大学教育における「海外体験学習」研究会2005年次報告集』⁵¹

ご静聴ありがとうございました

発表スライドは、以下からダウンロードできます。

<http://www2.toyo.ac.jp/~nejima/joeln/joeln-intro.htm>
<http://web.icu.ac.jp/slc>

国際基督教大学
サービス・ラーニング・センター
slc@icu.ac.jp